

## 性フェロモン剤によるチャノコカクモンハマキの防除法

安全で安心できる農産物に対する消費者の関心の高まりから、有機農産物への取り組みが増加しつつある。当試験場では、県の定めた有機農産物認証制度に対応できる栽培技術の確立に向け、平成10年度から試験を行っている。今回はチャノコカクモンハマキに対する性フェロモン剤（ハマキコンL）の試験結果の概要を紹介する。

初年度の試験で、平坦地および傾斜地に性フェロモン剤の基準量を設置したところ、傾斜地上側では傾斜下側より効果が低下した。そのため、2年目は性フェロモン剤の設置量を傾斜の上側に基準の1.5倍、傾斜中央に1.0倍、傾斜下側に0.5倍に変更し、フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数について傾斜地、平坦地および無処理と比較した。

平坦地では、無処理と比較して誘殺数が少なく、交

信攪乱効果が認められた。しかし、傾斜地では、傾斜上側と傾斜中央の誘殺数は無処理区と比較してやや少ない程度であり、交信攪乱効果はやや低かった。傾斜下側では、誘殺数が無処理以上となり、交信攪乱効果は認められなかった（第1表）。

このように、性フェロモン剤の効果は平坦地では高く、その実用性は認められたが、傾斜地では、設置方法を変えても基準量の設置では交信攪乱効果が低く、実用性は認められなかった。このため、性フェロモン剤を傾斜地で使用する場合には、設置本数を基準より多くする等、設置方法を工夫する必要があると思われる。なお、ハマキコンLは製造中止となり、成分割合を改良した、より交信攪乱効果の高いハマキコンNが登録となっている。

第1表 傾斜地における性フェロモン剤（ハマキコンL）のチャノコカクモンハマキに対する防除効果（誘殺数、頭）

区	調査位置	調査期間				計
		第1回目 (4月4日～6月1日)	第2回目 (6月2日～7月19日)	第3回目 (7月20日～9月1日)	第4回目 (9月2日～11月2日)	
傾斜地 処理区	傾斜上側	59	138	200	894	1,291
	傾斜中央	96	164	357	730	1,347
	傾斜下側	145	277	848	1,203	2,473
平坦地処理区	全体	60	90	99	216	465
傾斜地無処理区	傾斜中央	370	412	275	812	1,869

注) 各区フェロモントラップ3個の平均（但し無処理区は6個の平均）

[ 茶業試験場 邑田 修三 ]